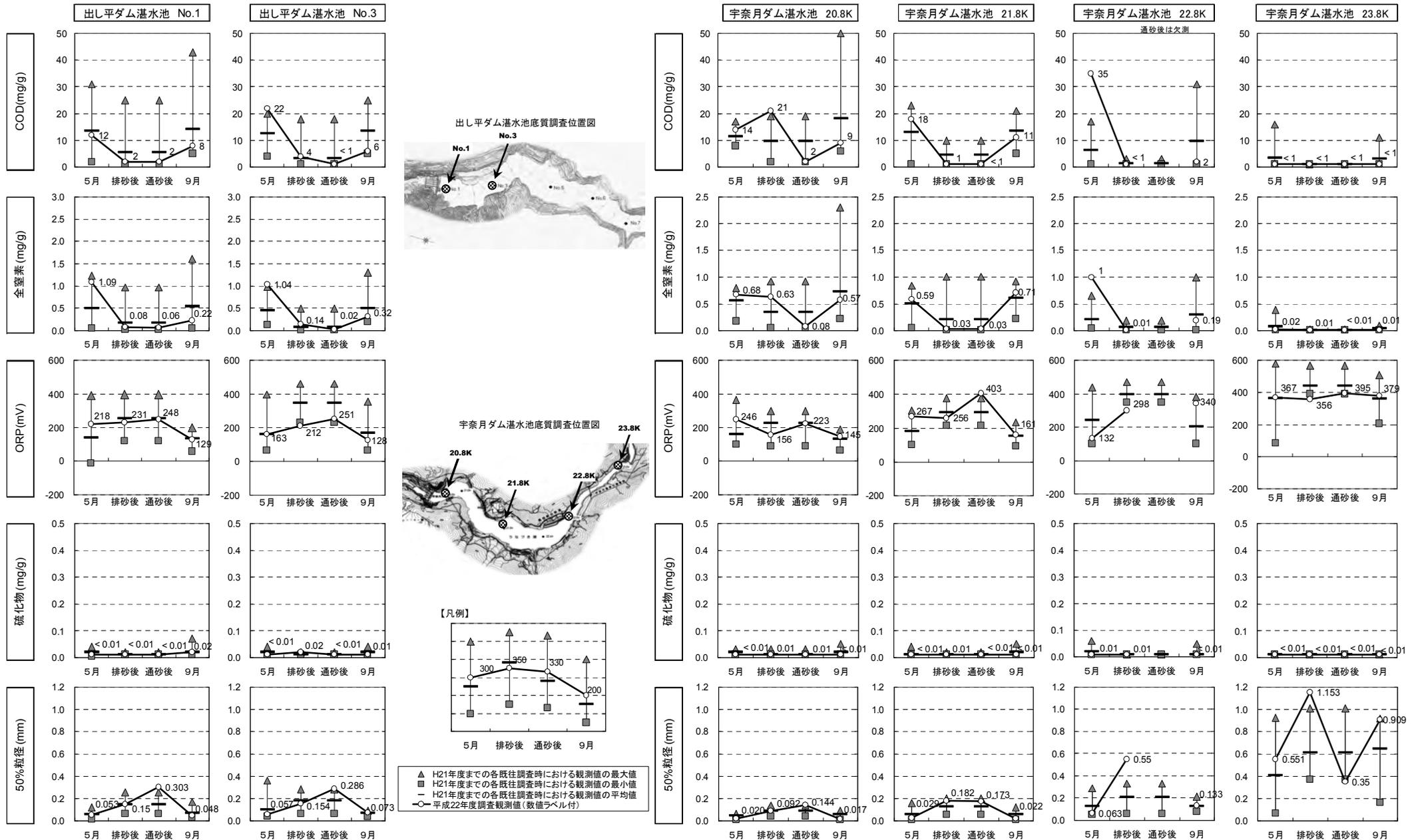


ダム湛水池 底質

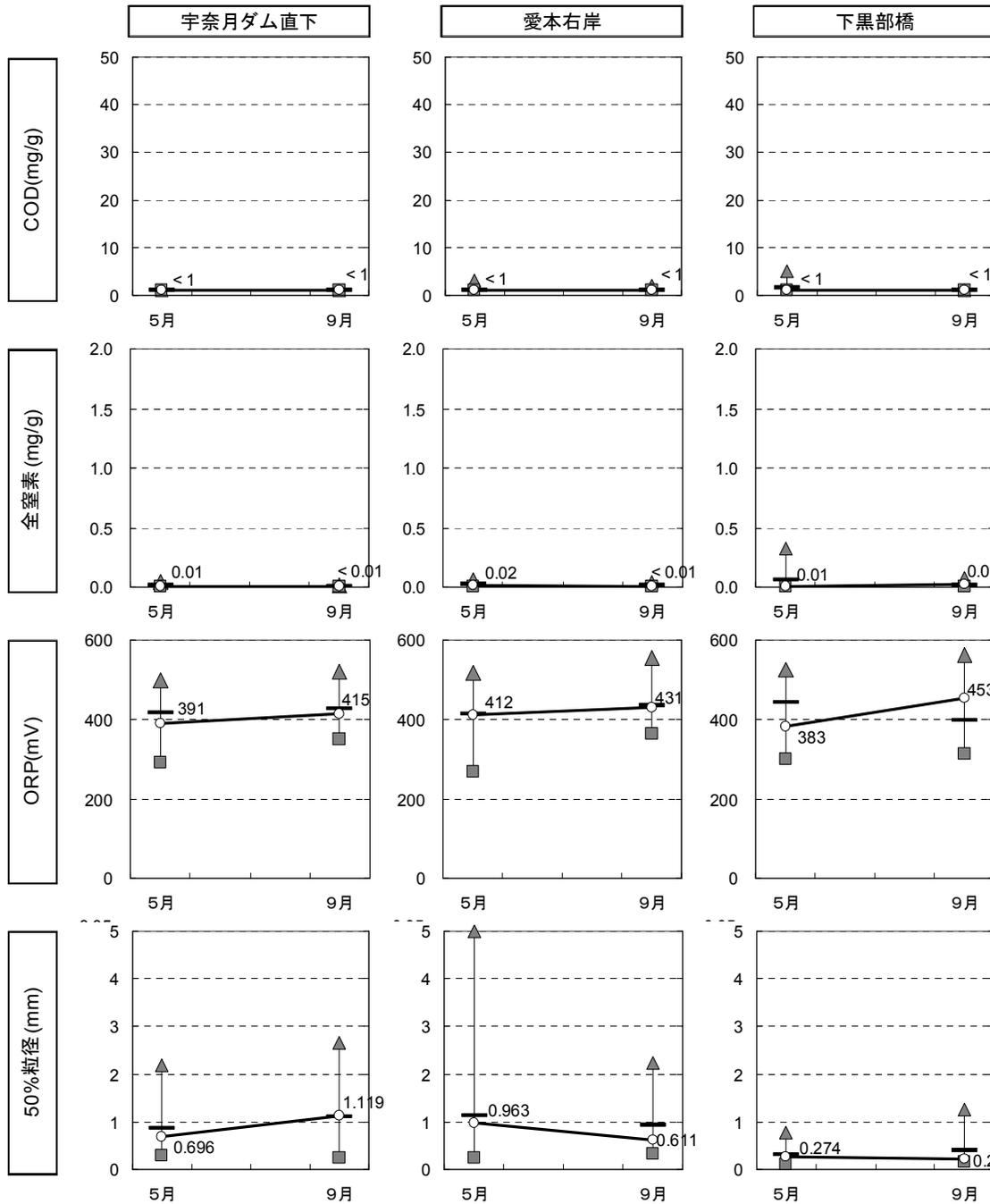
出し平ダムNo.1地点については平成21年までと同様に、5月調査時に比較し排砂1日後、通砂1日後にはCOD、全窒素が減少した。
還元性指標のORPは5月調査時に比較し排砂1日後、通砂1日後は酸化傾向を示した。
粒度組成（50%粒径）については、5月調査時に比較し排砂1日後、通砂1日後は粗くなった。

宇奈月ダム21.8K地点については平成21年までと同様に、5月調査時に比較し排砂1日後、通砂1日後にはCOD、全窒素が減少した。また、還元性指標のORPは5月調査時に比較し通砂1日後は酸化傾向を示した。
粒度組成（50%粒径）については、23.8K地点を除き、5月調査時に比較し排砂1日後、通砂1日後は粗くなった。

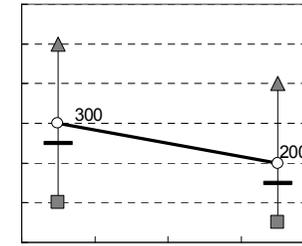


河川 底質

各地点とも過去の調査時における観測値の変動の範囲内であった。

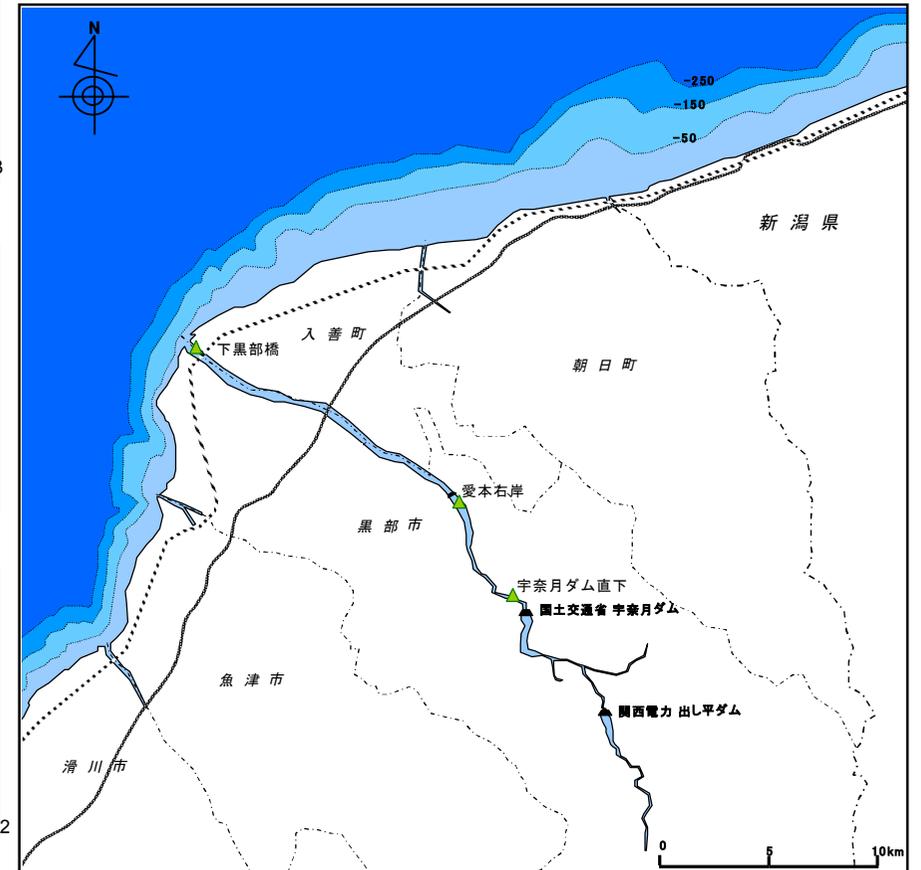


【凡例】



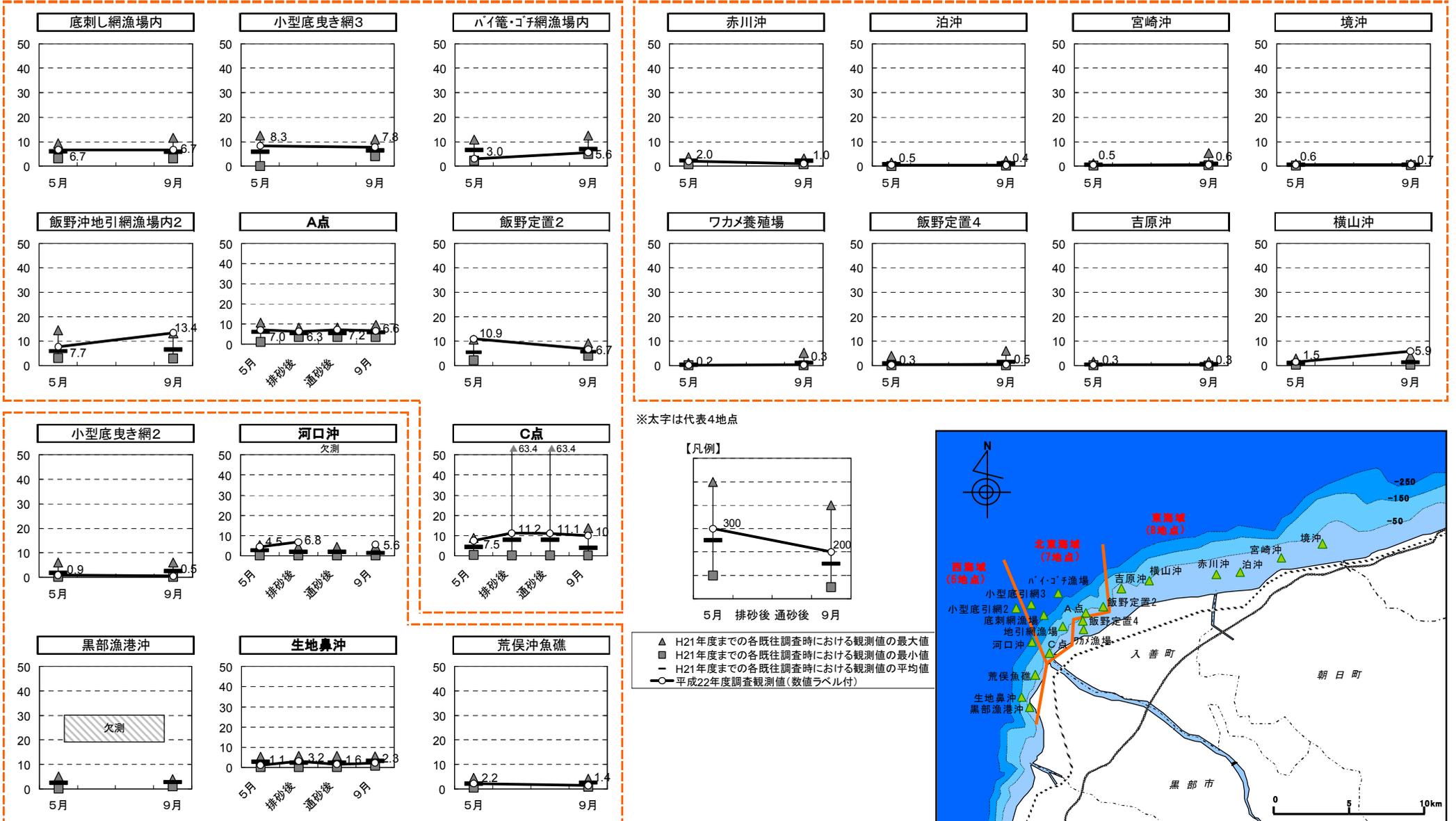
5月 排砂後 通砂後 9月

- ▲ H21年度までの各既往調査時における観測値の最大値
- H21年度までの各既往調査時における観測値の最小値
- H21年度までの各既往調査時における観測値の平均値
- 平成22年度調査観測値(数値ラベル付)



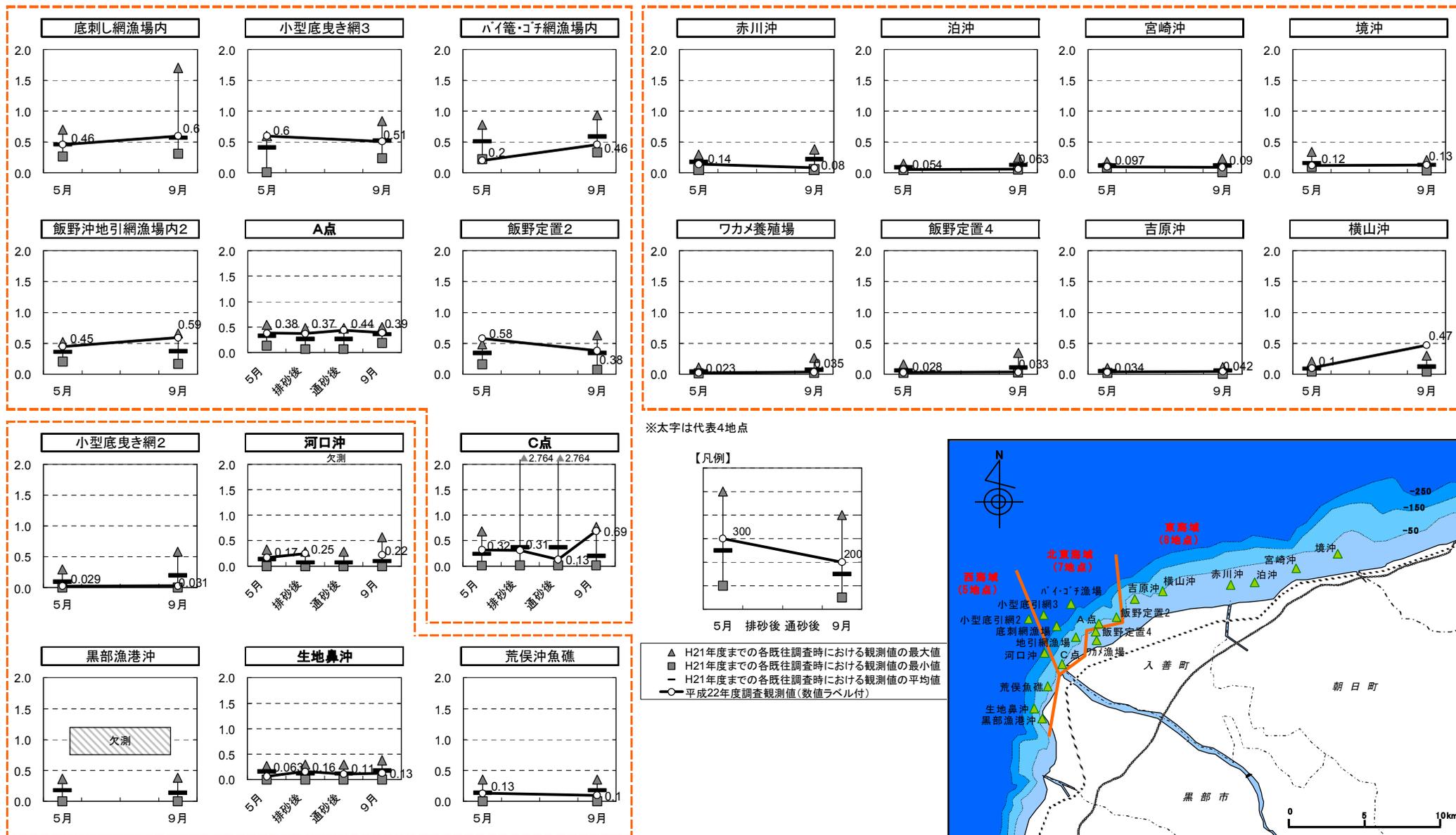
海域 底質 (COD[mg/g])

5月調査の飯野定置2、排砂1日後調査の河口沖、9月調査の河口沖、飯野沖地引網漁場2、横山沖を除き、各地点とも過去の調査時における観測値の変動の範囲内であった。各地点とも水産用水基準の範囲内(20mg/g以下)での変動であった。
 ※黒部漁港沖は海底が礫質で採泥できず欠測である。



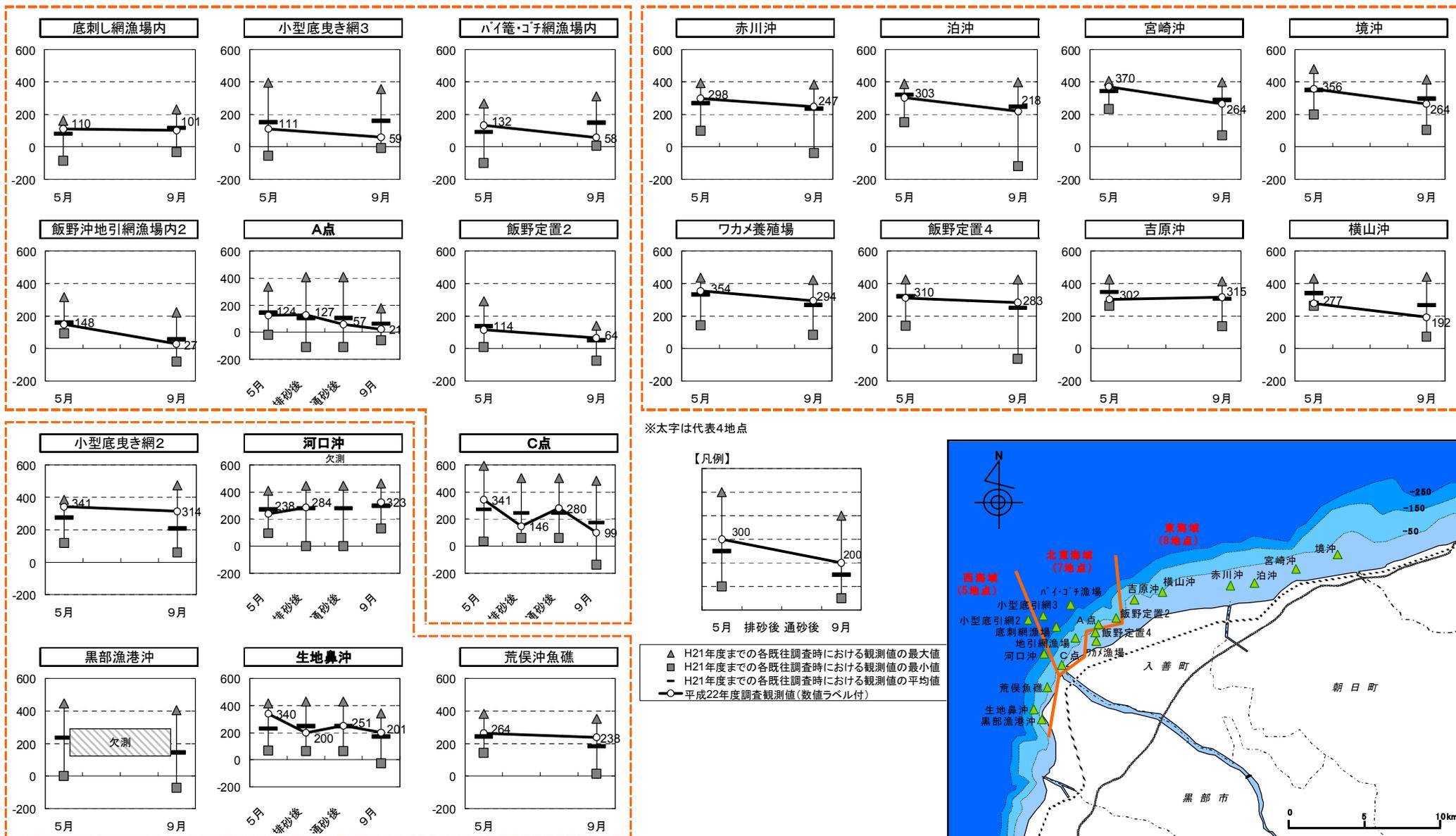
海域 底質 (T-N[mg/g])

5月調査の飯野定置2、9月調査の横山沖を除き、各地点とも過去の調査時における観測値の変動の範囲内であった。
 ※黒部漁港沖は海底が礫質で採泥できず欠測である。



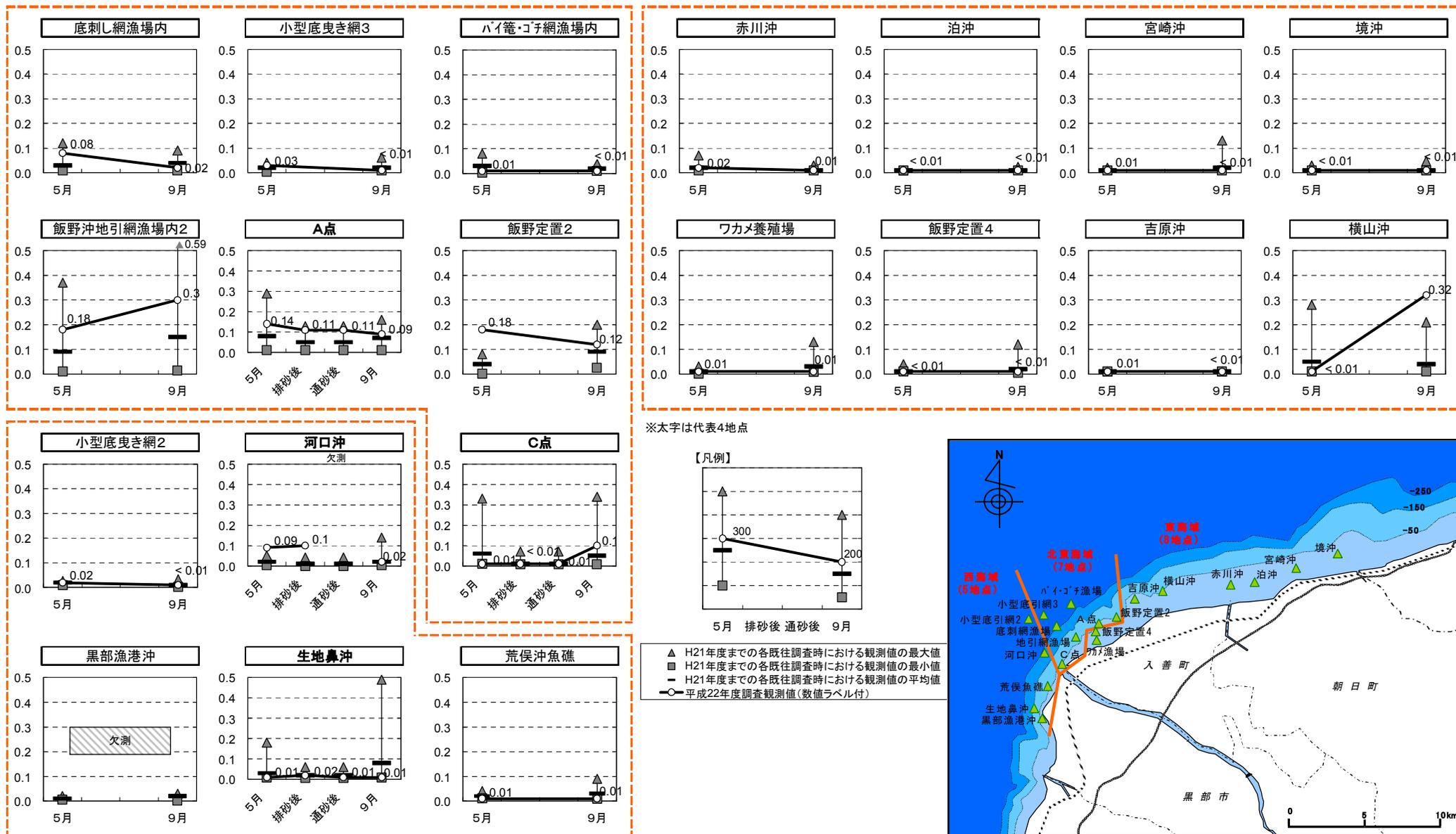
海域 底質 (ORP [mV])

各地点とも過去の調査時における観測値の変動の範囲内であった。
 ※黒部漁港沖は海底が礫質で採泥できず欠測である。



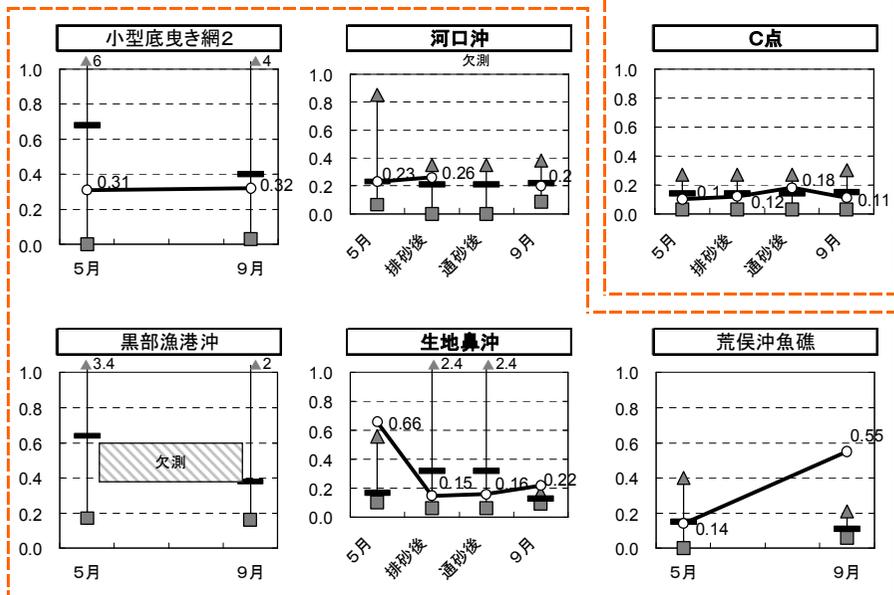
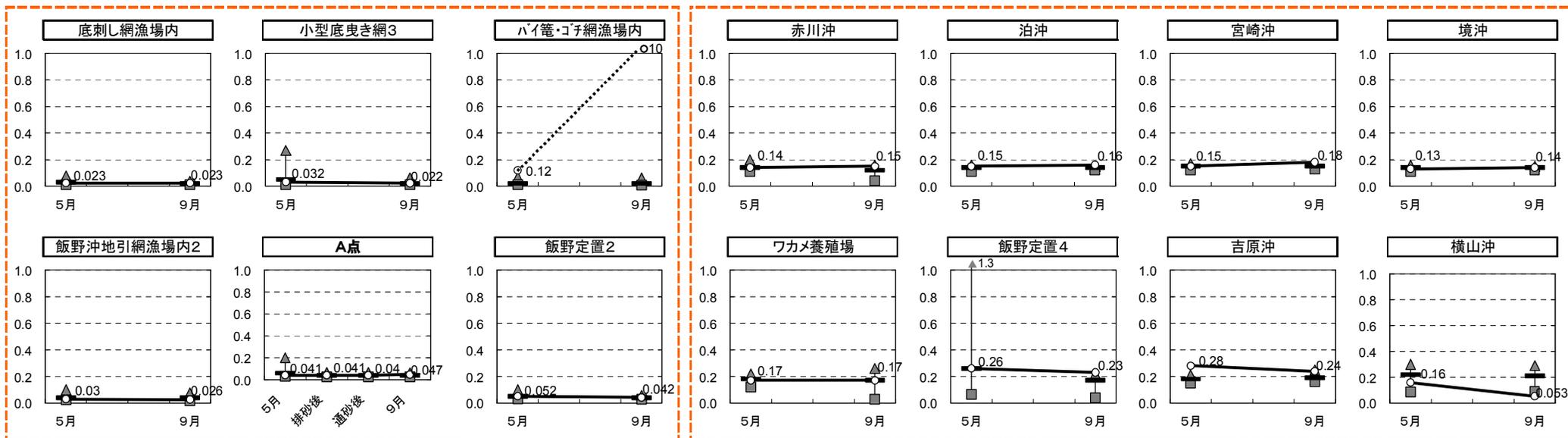
海域 底質（硫化物[mg/g]）

5月調査の河口沖、飯野定置2、排砂1日後調査の河口沖、9月調査の横山沖を除き、各地点とも過去の調査時における観測値の変動の範囲内であった。
 9月調査の飯野沖地引網漁場内2、横山沖を除き、水産用水基準の範囲内（0.2mg/g以下）での変動であった。
 ※黒部漁港沖は海底が礫質で採泥できず欠測である。

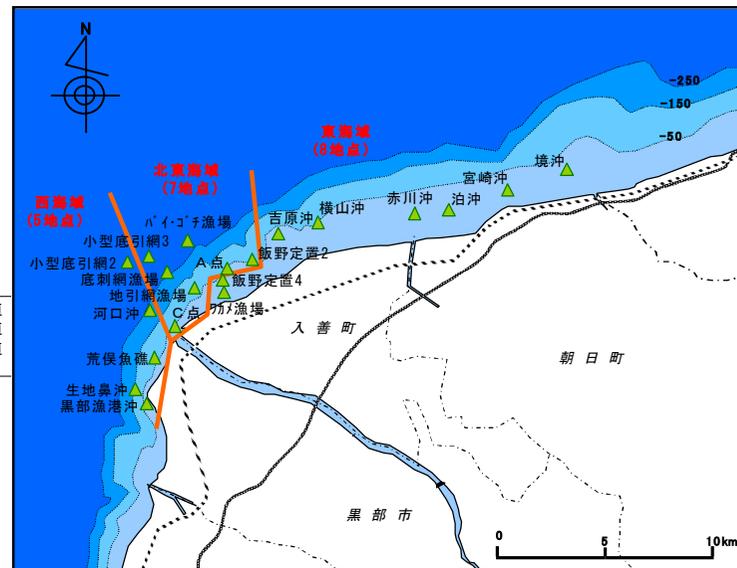
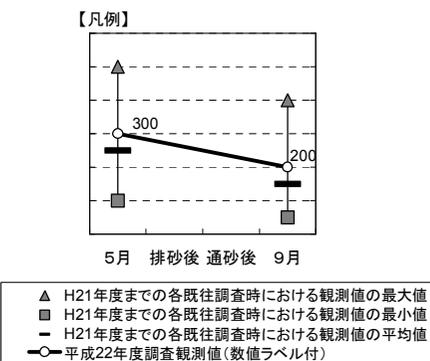


海域 底質 (50%粒径[mm])

5月調査の生地鼻沖、パイ箆・ゴチ網漁場、宮崎沖、9月調査の生地鼻沖、荒俣魚礁、パイ箆・ゴチ網漁場、飯野定置4、吉原沖、泊沖、宮崎沖では、過去の調査時における観測値の変動の範囲よりも50%粒径が粗かった。また、9月調査の横山沖では過去の調査時における観測値の変動の範囲よりも50%粒径が細かった。これら以外の地点では過去の調査の観測値の変動の範囲内であった。
 ※黒部漁港沖は海底が礫質で採泥できず欠測である。



※太字は代表4地点



用水路 堆積量

【調査内容】

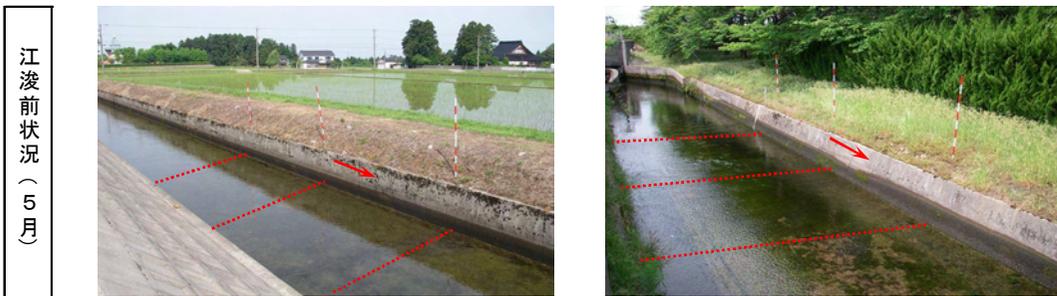
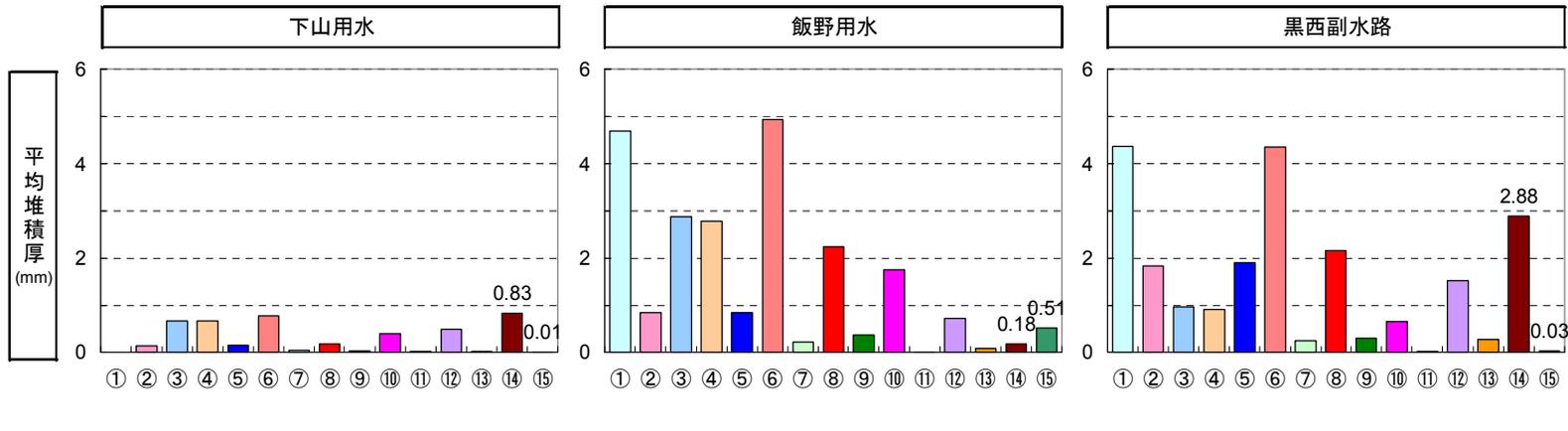
平成21年までの調査と同様に、用水路の一定区間において平成22年5月及び9月に堆積土砂を採取し、前回の調査時以降に同区間に堆積した土砂の重量を測定することにより、対象区間における平均堆積厚を求めた。

【調査結果】

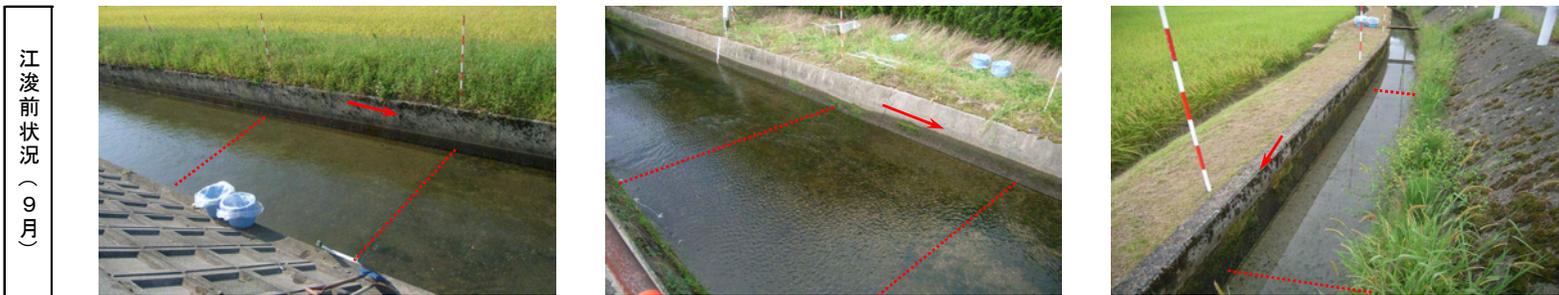
平成21年9月～平成22年5月の間にはいずれの用水路においても1～3mm程度の堆積がみられた。数mm程度の堆積厚は平成15年以降の各調査と同程度である。また、平成22年5月～平成22年9月の間の堆積量はいずれも1mm未満であった。

※平均堆積厚＝土砂重量／（調査区間面積×土粒子密度）

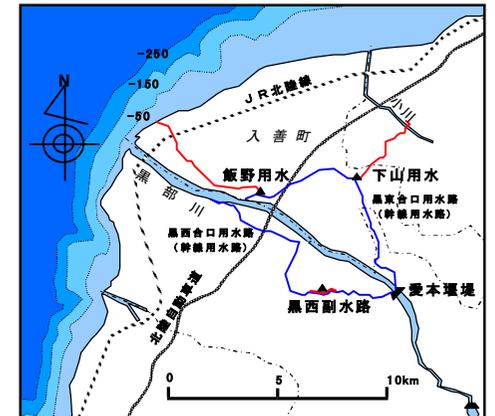
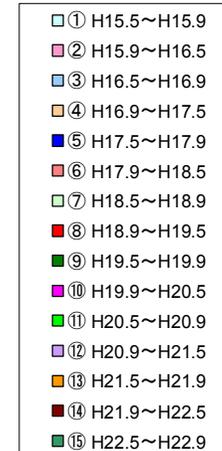
ただし、「土粒子密度」は、H17.5調査時からH19.5（またはH19.9）調査時の平均値による。



※赤破線の5m区間（上流区間、下流区間の10m区間）が調査対象区間である。



※赤破線の5m区間（下流区間のみ）が調査対象区間である。



調査地点位置図